

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当施設理念。人生の後半を迎えた利用者の方々は今後に対する不安と今をいかに生くべきかという悩みをかかえて居られます。私達はまず、利用者の方々の不安を充分理解することからはじめます。そして今ある貴重な人生を共に有意義に過ごすことができるよう 親切、忍耐、喜びの精神を持って奉仕いたします。30年この理念で地域を支えている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内入り口に掲示しており 研修も常に行い、理事長の理念を全職員が理解し、明るく「愛のある明日へ」を合言葉に小さな仕事から実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居者が外食、買物等日常的に地域社会に参加することで施設の周知を高め、職員が、校区、町内行事へ積極的に参加し、地域社会活動の主体性をもつことで、当施設の考えを理解、賛同してもらっている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎朝、入居者の方々は散歩を日課としており 近隣の住民とも顔なじみとなり 常に声かけ、挨拶は日常に行っています。休憩したりなど、地域の方が事由に施設に出入りすることもあります。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	この町内は、当施設、職員がいなければ、地域行事運営が円滑にまわらないくらい年間を通し、町内会等の役員とともに事業所の職員が主体的に参加し盛り上げている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	校区内だけでなく、校区外からも小学生、中学生の体験学習を日常的に受け入れており、また、社会人講和、介護保険の説明会等地域に職員が出かけて行き、地域支援活動を行っている。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行い、常に何が必要かを話し合っている。また、外部評価結果を誰でも閲覧ができるところにおいており、職員のみならず、ご家族、利用者へも確認してもらい、前回、受けた改善点である、サイン確認だけでなく、日付を記入することでのお互いの確認を実行している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は定期的開催し、利用者、家族、地域の要望等を取り入れ、運営向上に役立てている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとの情報交換をい、また、市町村の研修に出席したり、疑問や他施設の動向を知りたいときなどは、市役所、区役所担当者に出向き、又は、連絡することでアドバイスを受けている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	マニュアルを整備しており、職員の入社時研修だけでなく、現任職員も定期的な研修を施設内で行っている。相談先、手続きの方法等、家族からの問い合わせがあれば、即時に、対応できるように、冊子等を用意している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人は何かあっても絶対に身体拘束等の虐待は行わない決まりとなっている。各部署には、虐待身体拘束排除のマニュアルが用意されており、新人職員の入社時、現任職員の定期的な研修を行うことにより、徹底及び再認識している。		

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、生活相談員、計画作成担当者が、三段階で契約についての説明を行うことで、聞きやすい環境をつくり疑問に答えている。利用者、家族が納得できるまで、確認作業を行い、契約、解除を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を常設し、即時に対応が出来る状態にしている。また、直接言いにくい場合などは、福岡市、福岡県国民健康保険団体連合会等の公的相談窓口の連絡先などを自由に閲覧できるように掲示している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居契約時に、契約書、重要事項説明書にて介護計画の確認、金銭管理、日常施設で受けることが出来るサービスについての説明を利用者、ご家族が納得できるまで説明している。費用の支払に必ず月に一回は家族が窓口で支払いに来所するためそのたびに、また、家族の面会のたびに、利用者、家族とともに介護計画の確認、見直し、情報交換を行っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	守秘義務保持のために意見箱を設置している。苦情相談窓口を常設し、即時に対応が出来る状態にしている。また、直接言いにくい場合などは、福岡市、福岡県国民健康保険団体連合会等の公的相談窓口の連絡先などを自由に閲覧できるように掲示している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体連絡会議、定例改善カンファレンスなどの定期開催によって、改善事項などの提案を自由に行えるようなシステムになっている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	豊富なマンパワー、5ユニット40名程の従業者が常勤で勤務しているため、利用者、家族の要望するサービス等に柔軟に対応できている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットが独立した動きをとるのではなく、自由に交流しており、また、職員全員自信も他のユニットの利用者の介護が行える体制になっている。また、複数ユニットあること、常勤の職員が雇用されていることから、利用者が職員に馴染めるかどうか、性格の問題などを考慮し、適材適所のユニット又は、利用者の状態に合わせた担当に配置する配慮ができる。		

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>高齢者が好きであることを第一条件に、性別、年齢だけでなく、豊富な社会経験を積んだ他業種経験者からも広く募集している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入社時の職員倫理研修だけでなく、毎月行われる全体連絡会議、福岡県グループホーム協会への積極的な参加などでの研修啓発を行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>当事業所は複数ユニットあり、また、法人内に医療、福祉（施設介護、通所系、訪問系などの在宅介護）部門があるため、様々なケース（介護度、認知症度、疾患別）などを経験、研修をすることができる。新人教育プログラムだけでなく、年間を通して現職員の研修教育プログラムが決まっており、定期的な研修を行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国グループホーム協議会、福岡県グループホーム協会に属し、毎月、勉強会、研修会に参加し、他のグループホームと研鑽している。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>リフレッシュ休暇の取得、一流ホテルでの食事会、職員主催のバーベキュー大会などの福利厚生が厚く、リフレッシュできる環境が整えられている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務日、公休日を職員自らが選べ、給料、賞与は、減点方式ではなく、加点方式で支給となり評価される。頑張り努力した分は、賃金という対価で結果が必ず得られ、職員のモチベーションが下がらない環境になっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>施設での初期相談の聞き取りだけでなく、担当ケアマネージャー、包括支援センターとの情報交換を行い、自宅訪問による生活状況の把握を行うことで、ゆっくりと自分のペースで話ができる状況を作っている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>施設での初期相談の聞き取りだけでなく、自宅訪問による生活状況の把握を行い、家族の悩み(本音)を利用者の居ない場所でマンツーマンで聞き取ることも行っている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>地域包括支援センター、居宅介護支援事業所のケアマネージャーとの連絡をとり、今必要としている介護サービスの支援を協力して提供している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>いきなり入所利用するのではなく、まずは併設するデイサービスへ参加し、介護施設の利用への抵抗感を軽減させている。自由に帰宅外出できる体制を施設、家族でとっていることで、拘束間を利用者に感じさせない環境を整えている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>主体性は利用者であり、食事の準備、調理、洗濯、掃除、食事、買物等の日常生活をさりげなく職員自らも一緒に行い、共に、悩み、共に喜び、共に支えあっている。</p>	

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護計画を共に策定し、評価見直しも共に行う施設、行事イベントは、家族の自由参加とし、施設、家族、利用者が同じ目線で介護を行っている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族がともに情報の共有ができるように職員が間に入り、盛り上げていくようにしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	利用者が自宅、勤務先など思い出の場所にいけるように、職員と外出が自由にできるように支援している。又、友人との交流もできるように、施設内で一緒に食事ができるようにするなどの工夫をしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	行動を起こすときは必ず声をかけ、仲間と孤立しそうな場合は、必ず職員がマンツーマンでサポートしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所するときは、必ず、居宅介護支援事業者の紹介、福祉用具の手配などの在宅での環境のサポートを行い、整った上で、契約を解除する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ゆっくりと個別にアセスメントをとることで、利用者が自分の思いを自由に主張することができる雰囲気を作っている。必ず希望を取り入れるようにしている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居相談時、入居時に良く情報を引き出し、主訴が何かを探り出している。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>アセスメントから利用者の生活パターンを把握し、日々変化する病状、精神状態を職員間で、朝夕の申し送りなどを通して共有するようにしている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所時、面会時に本人の意思を尊重し、担当者会議にて話し合い、利用者、家族と共に生活歴、性格、病状などを勘案して、介護計画を策定している。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な評価を行い、新たな課題が発生した場合には、利用者、家族と共に悩み、新しい計画を策定し、職員全員が計画目標を周知実践している。</p>	

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的な気づきを申し送りノートに書き留めておき、職員全員の意見、考えを聞き、総合的に判断し、介護計画の見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当グループホームは5ユニットあり、デイサービスを併設していることから、環境変えたケアが可能であり、また、多様な職種し、マンパワーが豊富なことから、この力を生かした支援(イベント、旅行、外出等)を行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関などと協力しながら支援している	利用者の嗜好、生活歴などを考慮し、ボランティアの各種指導者(先生等)が定期的に来所し、趣味活動等を自由に参加できるようにしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のデイサービスに出席したり、有料老人ホームとの共同イベント開催などを行っている。また、他のグループホームとの共同での文化祭の開催なども行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所相談が行われた在宅生活時より、地域包括支援センターとの総合支援を居宅介護支援事業者のケアマネジャー等と連携し、入居後も引き続き協同し、支援を行っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時のかかりつけ医を入居後も主治医とし、投薬、急性期増悪の受診、指示を受けている。主治医が居ない場合は、複数の地域医療機関の情報を提供し、利用者、家族に決定してもらっている。また、急性期の入院受入先の確保だけでなく、定期的な訪問診療をお願いできる医療機関も確保している。		

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体が医療機関であることから、地域の精神科、心療内科、脳神経外科等の専門医を受診できるようになっている。また、職員が相談したい事項が発生した場合なども医師に直接相談が出来る体制になっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護職員への相談が自由にできるだけでなく、各利用者の主治医である医療機関の看護職員にも遠慮なく相談している。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関への入院だけでなく、他の地域医療機関への入院でも、必ず、計画作成担当者、生活相談員が医療機関へ出向き、医師、看護職員へ、状態の申し送りを行い、治療計画策定に当たっての期間の打ち合わせを行なっている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、当施設のターミナルケアの指針を定めており、重度化した場合の対応、終末期の考え方を説明し、理解を得ている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合、終末期に移行した場合などは、家族、職員、主治医と話し合い、往診の可否、家族のサポート、職員の心のケアなどの万全の準備が整うのか検討している。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	やむを得ず、状態の変化に合わせて居室を変更する場合は、スタッフ間で情報交換を充分し、慣れるまで全てを新規スタッフが引き継ぐのではなく、引き続き顔なじみのスタッフがサポートし、元の居室、環境に自由に入出入りができるようにしておく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>定期的に施設内研修を行っており、プライバシーの保護、個人の尊厳を常に守っている。個人情報の取扱規程も定めており、職員の言葉掛けも慎重に行われている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた！納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>主体性を利用者がもち、行いたいことを職員が理解し、希望した環境をつくり活動してもらっている。活動するときは、必ず、利用者の意見を聞き、行動を起こす。自己主張が苦手な利用者は、自発的に行動できるような声かけをマンツーマンで行っている。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居時に利用者、家族からの要望などをアセスメントし、個々に対応した生活を基本としている。また、天気の良い日等、利用者の精神状態にあわせて、日々のスケジュールを随時利用者個人に合わせて変えている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>居間、食堂等の共用部に出てくる場合は、必ず、整容をし、化粧を施した、おしゃれをした状態で併設デイサービスへ出かけるなど、日常のメリハリを支援している。協力理美容のサービスを施設内で受けることはできるが、極力、かかり付け理美容院へ出かけるようにしている。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者ごとに役割があり、準備、調理を共に行い、食卓を共にし、後片付けを行っている。食卓を共にすることで話が弾み食事が楽しくなり、自分の好みの量、味で盛り付けたものを残すことなく、利用者のペースでおいしく食べることができている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコは、共用部に喫煙場所があるため、自由に楽しめる。また、病状を勘案し、食後に焼酎、ビールを飲んでいる方もいる。</p>	

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人別の排泄表を用い、利用者個々の排泄パターンを全職員が把握し、声かけ、誘導を行うことによってサポートしている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大浴場での温泉浴、個浴など好きな入浴を選択できる。毎日、入れ替えた清潔な湯船に浸かることができるように準備しているため、利用者の希望に応じて、毎日でも入浴でき、毎日入っている方もいる。入浴嫌いは、友達に声かけしてもらいなど誘い合わせて楽しくなるような環境をつくっている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間、就寝時間を決めておらず、利用者個人の生活習慣に任せている。夜間安眠できるように、昼間、集団的役割、個人的役割等の活動をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理が得意、裁縫が得意など、日常生活で利用者が自主的に活動できるように個人ごとに役割分担があり、人のために役立っていると実感することが生きがいにつながっている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に外出し、日用品などは自分で財布をもって買出しをもらっている。金銭管理できない方は、施設内専用金庫にて管理し、家族確認のもと、日々、利用者自らが出入金し、買物している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ユニット内でじっとしている方は、ほとんどなく、行動的に活動しており、毎朝の散歩、買物、外食だけでなく、共用部分で行われるクラブ活動(趣味活動)への参加など利用者が自分の体調、気分に合わせて行える体制がある。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	毎月、一ヶ月の行事予定を利用者、家族、職員と立案しており、ドライブ、行楽、外食等のマンパワーが必要なものは、他のユニットなどの職員の手を借りるなどして、利用者、楽しんでもらっている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	24時間、利用者、家族が電話をかけることができるようになっている。また、子供、孫等が遠慮なく手紙を送ってくれている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設内が地域に開かれているため、気軽に立ち寄ることができ、孫が一人でも訪問できるような雰囲気になっている。友人と一緒に食事することもでき、希望があれば、泊まることも可能である。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人教育、現任者研修などで定期的に研修を受け、マニュアルも常に常備していることで全職員が理解している。身体拘束は今までも、これからのない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全てがフルオープンになっており、各ユニットの玄関口も、開錠しており、一階などの共用部玄関ロビーも自由に出入りができるようになっている。デイサービス、他のグループホームユニットの友人の所へも遊びに行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、全てが見渡せるように利用者の傍の食堂で記録や準備をし、他のユニットに外出する時などは、自由に行動ができるように、他のユニット職員に見守り介助の依頼を行う。夜間は、プライバシーに配慮し、定期的にさりげなく、訪室し安否を確認している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、刃物を使用するときは、職員が必ず付き添い、作業している。日常的に使用するものについては、数量等を確認し、所定の場所に保管し、随時、希望があったり、使用すべき時には、さりげなく、手元に用意している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	新入社員研修、現任者研修を常に行っており、マニュアルの確認も定期的に行っている。母体医療との合同勉強会にも参加している。		

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	常に緊急事態に対応が出来るように、応急手当などの緊急時対応の研修を行っている。毎年、年末には、事故緊急時の対応、処置、手続きの訓練研修を法人職員全員の参加が義務付けとなっており開催されている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した訓練も取り入れた避難訓練を年二回5月11月に行っている。全ての職員がマスターキーを持っており緊急連絡網によって、他の部署の職員にまで、連絡が行き届き、緊急時のマニュアルに従って全員が行動できるようになっている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	基本的には、外出などが自由に行えるなど、利用者の生活は自由になっている。その人らしく生活することで、個人行動が増え、リスクが高まるが、必ず良いケアが行えることの理解を、入居契約をする際に、当施設の理念や、趣旨をよく説明し、理解を得てからサービスを提供している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、個々にバイタルの確認を行い、記録している。状態の思わしくない、又は、訴えることができない利用者については、収集した日々のデータを確認し、各職員に申し送り対応している。必要な場合には、主治医より指示を受け、対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医又は看護職員より、処方内容についての説明、指導を受け理解しており、処方内容が変化した場合にも、主治医又は看護職員から必ず、変わった内容説明を受けて、服薬の支援を行っている。毎月、母体医療機関の薬剤師が服薬指導を行っており、定例で行われる薬剤の勉強会へも介護職員も参加し、知識を身につけている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	給食委員会によって、医師、又は、栄養士が便秘を予防する献立を立案し、消化を促すために、入所者全員が回廊式の廊下を使った歩行訓練などの運動を毎日行っている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人で行える利用者に対しても、見守り声をかけている。適切な口腔ケアを行うために看護師指導を受けている。毎月、協力歯科医院の歯科医師が口腔衛生指導、口腔チェックを行っている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全ての利用者の摂取量などは食事チェック表にて、体調を管理している。水分量は健康状態など必要に応じチェック表を用い管理している。栄養士、看護師が、利用者の状態、体重などから利用者ごとに栄養計算し支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	全職員が、定期的に施設内研修を受けており、インフルエンザなどについては、毎期、利用者だけでなく、勤務する職員も、予防接種を受けている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士を中心とした給食委員会から、食材、調理器具などの衛生管理を徹底して行うように指導がある。食材は、在庫品、加工品を使うのではなく、常にフレッシュ(生)を使用し、栄養士、調理師の調理指導の下、使用管理している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口は、植物を置いたり、入居者の活動記録の笑顔の写真を飾るなどして、親しみやすく、訪問しやすい玄関にしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な明るさで、室内温度も丁度良く調整され、季節の花々、雑誌などが置かれ、落ち着いた過ごしやすい空間となっている。廊下で一息入れることができるようにベンチを置いている。トイレなどの水周りは、常に清潔に保たれている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りこなれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	回廊式の廊下には、ベンチが置いてあり、ひとりで日向ぼっこができるスペースが用意されている。施設内はグループホーム以外にも自由に活動することができるため、デイサービスに出かけて行き、来所した友人に会ったりしている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個性に合わせて、ベッド、家具など使い慣れたものを自宅から持ち込んでもらい、自分なりの自宅を作ってもらっている。利用者宅からは、個性を感じることができる。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用部だけでなく、利用者の居室においても、個々に合わせた温度設定ができるような空調システムになっている。定期的に居室を訪室し、温度管理、換気に注意している。汚物処理など衛生管理を、まめに行っていることから、全く臭気はない。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館内、バリアフリーであり、必要なところに手すりがあり、トイレなどのドアなどもスライド式で力を入れなくても開閉できるものとなっている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の能力に応じ、洗濯、掃除、金銭管理など、日常生活で分かること、できることを当たり前に行うことができるようにさりげなく誘導し支援している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	ベランダの草花植物に毎日水をやること、建物廻りの草木などの草刈などを行うこと、季節の風を味わいながら散歩することなどを楽しみにされている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

高齢者在宅複合施設 サザン

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

法人開設30年目、グループホーム開設8年目をむかえ、この地域に不可欠な存在と誰もが認めるようになりました。地域の小学生、中学生が体験学習で当施設で始めて福祉活動を行い、そして、高校を卒業した、その子供たちが、介護職員として、本年もまた、新しい仲間として増えました。地域で育った子供たちが、地域で暮らしている高齢者に介護を提供するというごく自然な形での生活が毎日の光景で行われています。この自然な日常生活を生き生きとできるように、法人、職員、地域住民が連携を取り、盛り上げています。利用者個人を大切に、職員個人も大切にいくことで永続性が図れるということを30年の法人の歴史で学んでいることから、理想の介護は自然体であることであり、そこに皆の幸せがあることで成り立つようにと日々研鑽しています。